

平成27年度

第3回 阿波市教育委員会臨時会会議録

阿波市教育委員会

平成27年度 第3回阿波市教育委員会臨時会会議録

1 日 時 平成28年1月13日(水)

開会 午後2時00分

閉会 午後3時35分

2 場 所 阿波市役所 本庁 3階 306会議室

3 出席委員

委 員 長	重 清 由 充
委 員	安 田 佳 子
委 員	森 勝 正
委 員	庄 野 憲 二
委員(教育長)	坂 東 英 司

4 会議出席者

教 育 次 長	吉 田 一 夫
教 育 次 長	高 田 稔
教 育 総 務 課 長	矢 田 正 和
学 校 教 育 課 長	大 倉 敏 美
社 会 教 育 課 長	松 原 美 子
学 校 給 食 セ ン タ ー 所 長	大 木 悠 子
(書記) 教 育 総 務 課 課 長 補 佐	笠 井 久 美 代

5 付議事項

(1) 教育振興計画(後期推進計画)の諮問について

(2) その他

会議の大要は、次のとおり。

【重清委員長】臨時会を開会する旨を告げる。

(1) 教育振興計画（後期推進計画）の諮問について

【重清委員長】事務局に説明を求める。

【矢田教育総務課長】教育振興計画（後期推進計画）の諮問について説明。

〈質 疑〉

【森委員】この前決めた、教育大綱の中の4番目に情報教育の充実と書いてあります。今説明があった内容ですと、情報機器を活用した学力向上ということで、情報教育そのものの充実としては表現が弱いようですが、私としては、タブレットの導入も早いし、一人の専門の先生も配置している、もう少し市として強力に進めて行きますということ、この中で表してもいいんでないかと思います。もう一点が、学力についてですが、国で行っている学力検査のB分野のことを考えてみますと、課題解決型の学習に力を入れていると思いますが、言葉として課題を見つけてそれを解決するために、いろんな方策を考えながら解決していくという、課題解決のスキルという言葉もありますが、そのような言葉も入れたらと思います。B分野がどことも弱いと思うので。学力向上していくためには、問題解決型というか課題解決型の学習の指導方法も入れていったのがいいのかと思っております。

【安田委員】22ページの特別支援の件ですが、「普通学級に在籍しながらも支援を必要とする子どもに対して」というのが、とても問題になっていて、先生に配置がなく、市の加配で賄っているのが現状なんで、それを根本的に解決する方法として、乳幼児からの見守りというか保健師さんの指導とか、その段階での親への特別な支援の理解を促すというのを、もっと進めないといけないと思います。もっと早い段階での就学前の前の段階、乳幼児からの見守り。教育委員会の担当ではないかもしれないけれども、必要性があるのでないかなと思います。乳幼児からの見守りと親への特別な支援の必要性の理解を求めるとか、理解を促すということが、あとあとの特別支援の充実につながっていくのではないかと思います。

それと60ページのスポーツ少年団の数とか子ども会の会数は何か根拠があって増やしてるのかと思うんですが、子どもがどんどん減っているので、根拠があってこの数になっているんだったらいいんですが、子どもが減ってきている状況なので、現状維持でもかなり難しいと思うんですが、阿波市で出生している子どもの数は年間200人くらいになっていると思うので、

平成 32 年くらいでは学校のクラス数も減って、子どもの数も減っている段階で、スポーツ少年団の数とか子ども会の会数が増えることはないかと思えます。65 ページの英会話教室の開催数と参加人数の表現を再考したらと思えます。

【吉田教育次長】これは実人数、実回数で表しています。

【松原社会教育課長】1 回に 73 人で、4 教室で行っています。初級中級と別れて熱心にやられています。ALT の先生が一人ずつついています。

【安田委員】そうですか。

【吉田教育次長】表現の仕方が誤解を招く恐れがあり、修正します。

【松原社会教育課長】開催数と参加数のところの表現方法を考えます。

【吉田教育次長】先ほどお話があった指標数のところで、人数については言われたように 5 年後の人数の減少はやむおえない状況の中で、増やすというのは非常に厳しいと思えますので、現状維持の数字でいくことも再考させていただきたいと思えます。

【安田委員】子ども会というのは、学校ごとの子ども会ですね。

【松原社会教育課長】地域ごとです。社会教育課が補助金を出しています。自治会長会でも質問があつて、これから子どもたちが少なくなるけれども、さらに地域に人とのかかわりが必要になってくるんでないかということで、補助金の申請に来た時に会員を増やすようお願いしています。会長さんになる方がいなくて、地域のお祭りとか、神社の草取りとかしてきたんですが、なかなかそういうお世話をしてくれる会長さんがいなくて。子どもが少なくなったからというのではなく、地域とのかかわり、密着が大事でないかと思って、お年寄りの方の行事に子どもたちも参加して、地域のことを知ってもらおうという意味で。子ども会を今後広めて行きたいと思えます。

【安田委員】阿波町の地域では、子ども会活動をしていない地域もあります。それで、岩津地区のお祭りでもちつき大会したり、林の地域が子どもと夏に竹で何か作ったり、地元の方々が子ども会活動を補助しているようなことがあります。それに関しては、補助金はないと思えますが。子ども会活動がないのでそういう人たちがサポートして、子ども会活動に代わってしてくれていますので、その活動に補助金とかはないのでしょうか。学校以外の団体は企画総務課とかになるかもしれませんが。

【吉田教育次長】企画総務課が「元気なまちづくり活動支援事業」をしております。公募して、約 30 団体程度が応募していると思えます。子どもだけで集まる子ども会は社会教育課で進め、地域は地域で盛り上げてほしいしそれは企画総務課でとなります。連携していかなければと思えます。今ある制度で活用していただいている団体が 74 あり 1,300 人が活用している

ので、現状維持していきたいと思います。

【安田委員】ありがとうございました。カウンセラーの先生の稼働率とか解るんですか。カウンセラーの先生は週 1 回来ているんですが、どれくらいの利用率がありますか。

【高田教育次長】わかります。それぞれの先生が実績をあげていますので。県の事業ですので、学校が県に提出しています。阿波市としたら、うまく活用していただけるように支援はしていかなければならないと思っています。独自で雇っている適応指導教室にはそういった先生を配置しています。

【安田委員】適応指導教室の先生は市場中の先生が来ていますよね。阿波っ子に半日来て、市場中に半日来ているんですか。

【大倉学校教育課長】阿波っ子は、月 2 回火曜日の 9 時から 12 時までと時間が決まっています。

【安田委員】阿波っ子は、定期的にカウンセリングを実施しているみたいですね。生徒が増えていますので、新学期になる前とか、熱心にカウンセリングをしているみたいですね。

【吉田教育次長】安田委員から言われた、特別支援教室については、阿波市は切れ目のない子育て支援ということで、乳幼児から保育所、幼稚園、小学校につなげるような、計画書の中段から下あたりに、「さらに特別支援連携協議会においては、医療・福祉・保健・教育等関係機関で連携したとりくみができるように、特別支援教育推進体制づくりに努めています。」ということで、連携はしていきたいと考えております。

【高田教育次長】森委員さんが言われました、16 ページの情報教育については、文科省の学習指導要領をもとに記述しました。主に専門的なことについては、高等教育で学習することになっていますが、義務教育では、情報処理能力と情報モラル教育がベースになっておりました。学習指導要領の文言を 5 年間の方針の中に入れさせてもらっています。中学校においては、生徒が情報モラルを身につけるといのが一つの目的です。もう一つは、コンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段を適切かつ積極的に活用できるようにするために学習活動を充実させる。小学校はその前段階ですので、情報モラル教育ともう一つは、適切に活用するために工夫するようにと部分修正させていただきました。

もう一つは、タブレットですが、今年かなりのお金をかけて導入していますが、タブレットという言葉に置き換えるのではなく、よく使われているプロジェクターであったり、電子黒板の利用であったり、実物拡大機などそういうことを含めて ICT を活用したという言葉で学力向上を図るといようなことで、5 年間の方針の中で付け加えさせていただきました。16

ページの中ほどに付けくわえさせていただいたのですが、「小中学校においては、児童生徒の情報活用能力の育成が一つの目的で、情報モラルを身につけ」と書いてあるんですが、何をというのが書けていないので、後で再考させていただきます。

学力向上は、「確かな学力、豊かな心、健やかな体、食育をベースに書きました。課題解決、問題解決の力というのは大きく、確かな学力とか学力をつけるためにということで、一緒に入れ込んであります。この件も、後で再考させていただきます。

【庄野委員】 文章表現で気がついたんですが、20 ページの「心と体の健康問題への対応」ということで、4 行目で「不安感やストレスだけでなく、命への不安感を感じながら生活している子どももいると思われれます。」と書いてありますが、命への不安を感じる子がいるのに「思われれます」という感じで書くのは、捉える方からしたら、深刻さを出したい意味があつてそうしたんだと思うんですが、文章表現を変えた方がいいと思いました。

【高田教育次長】 わかりました。

【庄野委員】 37 ページのハーフマラソンのことですが、「県下初の」とありますが、これは勘違いされると思います。ハーフマラソンは吉野川市でもしていますので、「県下初のハーフマラソンとして」ではなく「ハーフマラソンとして、県下初の日本陸連の公認を取得し」としないと勘違いすると思います。

【高田教育次長】 わかりました。

【庄野委員】 幼稚園と認定子ども園がありますが、認定子ども園をどのように捉えているか、私が言って「幼稚園等」というように「等」が入っ直してありますが、19 ページ、5 年間の主要事業の中に「評議員制度の定着と活用」のなかに幼稚園・学校しかありません。評議員も認定子ども園にもいるんでないかと。認定子ども園が教育委員会の管轄でないので載せないのかなと思うんですが、認定子ども園の捉え方というのが。教育委員会は認定子ども園は出さずに行くんですか。

【高田教育次長】 事業の中では、入れる必要はないと思っております。現状や課題の中においては、就学前とか幼児教育とか言ったらすべて入ってくるのでないかと思えます。それと、行政用語ですけど、幼児教育といったら1歳から就学前までを指します。表現方法は難しいかと思えます。文章の中では重なる部分が出てくるんでないかと思えます。

【庄野委員】 わかりました。

【吉田教育次長】 今は、幼保連携型認定こども園ということで、管轄は子育て支援課で市長部局になっていますので、ただ関係ないというわけではなく、同

じ4歳児5歳児もいますので、連携した取組ということで幼稚園等という表現にかえさせてもらいました。

【重清委員長】 人権教育研究大会でも、こども園と幼稚園の先生方が同じように集まって大会が開かれておりますので、そういったことで幼稚園等ということですね。今までだったら、授業も参観した上で講演というのもありましたが、今回はこども園のほうが主催者側でしたので講演だけでした。主催者が幼稚園か認定こども園かによって変わってくるのかという感じも受けました。

先ほどの意見ですが、20 ページのスクールカウンセラーの件ですけれども、先生方も子どもたちも保護者の方もそれぞれに、子どもたちや保護者は子ども同士の問題とか、保護者は先生方に対する悩みや子どもの悩みとか、先生方もお仕事の忙しさや子どもたちの学級運営の悩みとか、たくさん悩みを抱えられておられますので、本当にこのスクールカウンセラーの活用というのはどの方にもどの子たちにもどの保護者にも必要かと思うので、どうぞ活用してくださいというのでは行きづらい部分もあるので、できるだけ皆さん忙しいと言わずに、1回はお話を聞いていただく機会を先生方も持っていていただくような感じで進めていただけたらと思います。21 ページの教職員の指導力とカウンセリング能力の向上というふうに主要事業にもございますので、できるだけ先生が生徒にも対応できるように、自分の心のバランスもとれるようなかたちでカウンセラーの方を頼ったり、ご指導いただいたりしながら、バランスを保っていただきたいと思います。

【吉田教育次長】 修正等細かな点は再考したいと考えております。目標値も再考いたします。「わたしの阿波未来プラン」との関連もあったりしますし、総合戦略での目標値もありますので、多少修正させていただくところもあるかもわかりませんが。修正して諮問を出す前にお配りさせていただきたいと思えます。その後審議会から答申を受け、パブリックコメントして、最終審議ということになります。

【重清委員長】 各ページ読ませていただきましたら、各担当の皆さまが作られた内容が本当に一生懸命考えられており、子どもたちや学校を思って作成されたというのがすごくありがたく感じました。この気持ちが小学校、中学校校長先生に伝わって、それがまた教職員の方に伝わり、実際子どもたちをご指導いただけたらと思います。

【重清委員長】 「教育振興計画（後期推進計画）の諮問について」を承認する旨を告げる。

(2) その他について

【重清委員長】 委員、事務局に何かあるか尋ねる。

〈質 疑〉

なし

【重清委員長】本日の議事がすべて終了したので、閉会する旨を告げる。

閉 会

上記のとおり相違ないことを証明します。

平成28年1月13日

委 員 長

委 員

委 員

委 員

教 育 長

教育総務課課長補佐